

なんYA!かんYA!

— ブルース・リー —



「座右の銘」とは、あなたが悩んだり困ったりしたときの、よりどころとなる言葉です。あなたには「座右の銘」がありますか？今回は、世界の偉人たちの名言を紹介します。いったい誰が残した言葉なのでしょう？あなたの座右の銘となる言葉をさがしてください。

Don't think, Feel!
(考えるな！感じろ！)

無欲は怠慢のもとである



— 渋沢 栄 —

状況？なにが状況だ
俺が状況をつくるのだ

— ナポレオン1世 —

怒りは無謀をもって始まり
後悔をもって終わる

— ピタゴラス —



20歳の顔は自然のおくりもの
50歳の顔はあなたの功績

— 高村 光太郎 —

僕の前にみちはない
僕の後ろにみちはある

— ココ・シャネル —

「これが最悪だ」などと言えうちは、まだ最悪ではない

— シェイクスピア —

おもしろき
こともなき世に
おもしろく

— 高杉 晋作 —



『10代のための座右の銘』 大月書店 より

トショブラ♥ ~本の福袋~

もうすぐ新しい年がやってきますね。あなたはお正月をどんなふうに過ごしますか？お年玉をもらったり、おせち料理を食べたり、初詣に行ったりいろいろな楽しみ方があるけれど、図書館でも新春お楽しみイベント「本の福袋」の貸出を開催します。テーマ別に図書館スタッフおすすめの本が3冊入っていて、どんな本と出会えるかは、借りてからのお楽しみ！利用カードがあれば、誰でも借りることができます。2023年は1月4日（水）から貸出スタートです！（なくなり次第終了）

発行：甲賀市図書館

水口図書館 : 63-7400 土山図書館 : 66-1056

甲賀図書館情報館 : 88-7246 甲南図書館交流館 : 86-1504

信楽図書館 : 82-0320

ホームページ : <http://lib.city.koka.lg.jp/>

Book guide for Young Adult

甲賀市図書館ヤングアダルト通信



vol.16

2022. Winter - Spring

Koka City Library

ヤングアダルト (Young Adult) とは、中学生・高校生を中心とした大人と子どもの境目の世代「若い大人」「大人になりつつある人」という意味です。

甲賀市図書館ヤングアダルト通信『ホンマニ！』では、ヤングアダルト世代のあなたに、おすすめの本を紹介します。

★ “心にまとっている無関心という名のマントを破り捨てなさい”
(ドイツ抵抗運動のピラより)

『パンに書かれた言葉』

朽木祥／著 小学館

おすすめ この1冊



光・S・エレオノーラ (エリー) は中学生。ある春の大地震の後、その影響からか心に不調を感じていたところ、勧められて母の故郷イタリアを訪れる。そこで彼女はある事実を知る。祖母の兄が第二次世界大戦でパルチザンとして亡くなっていたことを。そして彼の残した硬いパンのメッセージを。帰国後の夏、今度は父の故郷広島で、原爆で亡くなった祖父の妹の日記—近しい人が遭遇した残酷な現実の記録—を目にする。そうしてエリーはあることに思い至る。戦争が、ナチスが、原爆が、災害が多くの人をどう狂わせたのか。

これは遠い世界の物語ではない。最後に何が残ったのかあなたの目で確かめてほしい。

●夢が叶うかどうか、自分で確かめてみる
『太陽と月』

はらだみずき／著 小学館



“将来の夢は？”と聞かれると、“プロのサッカー選手”と答えていた月人（つきと）。しかし、それは前までのことだ。いろんな試験や大会を経験するうちに、自分にはそこまでの能力がないことが分かってきた。だからと言って、サッカー選手になる夢をあきらめたわけではない。そんな気持ちを抱えつつ参加したJリーグの育成試験で、太陽という名前の小柄だがすごいヤツと再会する。以前、試合で股抜きをやられた相手だ。月人は、太陽や同じ夢を追いかける仲間と出会い、自分の進む道を探し始める。

●地球に暮らすきみ。そこは本当に住みやすい星ですか？
『火星のライオン』

ジェニファー・L・ホルム／作 もりうちすみこ／訳 ほるぷ出版



2091年。火星のアメリカ合衆国入植地に暮らすのは、5人の子どもと6人の大人、それに猫1匹だけ。閉ざされた空間での毎日は退屈で、他の国の入植地に行ってみたいけれど、なぜか交流は禁止されている。そんなある日、大人だけが次々と謎の病気で倒れていった。追い詰められた子どもたちは、やがてある行動を開始する……。

70年後の、夜空に赤く光る火星が舞台の物語なんて、これはもう間違いなくSFだけど、案外「いま」「地球」に生きているぼくらのお話なのかもしれない。

●“理由、要るんじゃないの？”
『笹森くんのスカート』

神戸遥真／著 講談社



夏休みが明けた九月一日、笹森くんが突如、制服のスカートを穿いて登校してきた。学校中でその理由に憶測が飛び交うなか、本人はスカートを「穿いてみたかったから」なのだという。そして、「それ以外に理由って要る？」とのこと。変な気づかいや野次馬精神で学校内はざわついているけれど、渦中の笹森くんは今までと何ら変わらない様子だ。

自分にとっては大きな問題でも、他人には理解してもらえないことがある。そんな悩みを抱えるクラスメイト4人と、笹森くんの物語。

●太古の生物に夢を馳せて
『化石の復元、承ります。』

木村由莉／監修 ブックマン社



はるか昔に絶滅してしまった太古の生物。誰も見たことがないその姿を、かつての姿に限りなく近い形で蘇らせるプロたちを、本書では「古生物復元師」として紹介しています。骨格レプリカ製作、生体模型製作、デジタル復元、博物館の展示づくりなど、古生物に関わるさまざまな仕事の舞台裏を覗きながら、彼らの古生物に注ぐ熱い情熱を垣間見ることができる一冊です。太古のロマン、あなたも感じてみませんか。

●天気を知る 自分と大切な人を守るため
『空を見上げてわかること』

斉田季実治／著 PHP研究所



天気予報は、私たちの生活に欠かせないもの。気象予報士の斉田さんは、防災に役立つ放送をめざす気象キャスターとして天気情報を伝えています。この本からは、命を守る行動を促すために「どう伝えたらいいか」日々自問自答する姿が身近に伝わってきます。

気象情報を産業に活用する取組は、気象予報士の新たな可能性の広がりがみえて興味深いもの。斉田さんが今重要視する「宇宙天気」とは？天気を知ると大切な未来を思い描く生き方がつかめます。

●ダイエット成功ランキング総合1位は滋賀県
『世の中は奇跡であふれている』

鳥越規央／著 WAVE出版



「四つ葉のクローバーを見つけた！」「時計を見たら誕生日と同じ数字だった」。私たちは出来事の結果だけを見て「奇跡が起こった！」と思い込んでしまいます。

人は想像以上に思い込みに支配されています。この本では世の中のあらゆる出来事を数字でみていきます。そうすると、日常に隠れた奇跡の瞬間を知ったり、不安に思っていたことが安心に変わったりと前向きになれるはず。だって私たちは存在しているだけで奇跡的なんですから。